



## CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ ······ 1
- ◆教育学部長あいさつ ······ 2
- ◆学部からのお知らせ ······ 3
- ◆学生の年間スケジュール紹介 ··· 4
- ◆卒業生の声 ······ 8
- ◆後援会活動の概要 ······ 10
- ◆後援会役員名簿 ······ 11
- ◆学生支援事業のお知らせ ······ 12



## ご挨拶

後援会会長 高濱禎彦

新入生並びに保護者の皆様には、ご入学を心からお祝い申し上げます。あわせて、保護者の方におかれましては、島根大学教育学部後援会の会員となられましたことを歓迎申し上げます。また、会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。本年度、会長を務めさせていただくことになりました高濱と申します。

本後援会は、「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部に協力すること」を目的に、昭和27年に学生を支える仕組みとして活動が始まったと聞いております。これまで、学部関係者をはじめ諸先輩方などのご尽力により、学生の皆さんのが充実した大学生活を送ることができるよう取り組んできております。新入生保護者を始め会員の皆様のお力を借りて、本後援会がますます発展するよう、誠意を持って取り組んでまいりたいと考えております。何とぞ宜しくお願ひ致します。

さて、ご承知の通り、昨今の学校教育現場においては、さまざまな課題が山積し、その解決に向け国・都道府県教育委員会・市町村教育委員会・現場の教職員が取り組みを進めています。その一つは、予測が難しいこれから社会を生きていく子ども達に「自らが課題を見つけ、自ら学び考え、判断して行動することのできる資質能力」の習得を目指し、学校現場において「新学習指導要領」が順次実施され、授業改善・授業研究が進められ

ています。また、社会と連携・協働した教育活動「社会に開かれた教育課程」が打ち出され、これを支える制度として「コミュニティ・スクール（学校運営協議会を置く学校）」「地域学校協働活動」が導入されてきています。そして、新型コロナウイルス感染症の対応から顕在化してきたICT環境について、次世代の学校・教育現場の教育スタイル「個別適正化された学び」として、GIGAスクール構想のもと整備が進められています。

このような教育現場で実践活動を行っていく教員に、これから求められる資質能力が「困難な課題に同僚と協働し地域と連携して対応する能力」や「探求力を持ち学び続ける資質」であることを考えると、本学部が先進的に取り組んでいる実践型学修「1000時間体験」をはじめとする学部教育活動・教育実習がいかに重要であるかがわかります。

これまで同様、このような本学の学習活動を学生の皆さんのが安全で快適な環境で専念することができるよう、教育環境の改善・充実のための支援事業を本後援会の最上位目標として取り組み、教育現場の変化に対応した新たな取り組みも検討していきたいと考えています。

会員の皆様におかれましては、今後も本後援会の事業に対しましてご理解を賜りますとともに、学生生活がより実り多き物になりますよう、ご助言ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 生涯学習の基盤となる 教育を目指して

教育学部長

加藤寿朗

令和3年度入学生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。また、教育学部後援会の皆様におかれましては、平素より本学部の教育・研究活動、ならびに就職支援活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

島根大学では、この度の新型コロナウイルス感染症の影響拡大に配慮し、令和2年度の卒業式、及び令和3年度の入学式を代表者のみの出席で行いました。卒業生や新入生の皆さんはもちろん、ご家族におかれましても、人生の新しいスタートの節目となるこの式典を心待ちにされていたことと思います。これも健康と安全を最優先しての措置であることをご理解いただきますようにお願いいたします。

さて、グローバル化、情報化など子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの成長を支える教育への期待は益々大きくなっています。このような中、全国の小学校では昨年度より新しい学習指導要領に基づく教育課程が全面実施されました。中学校は本年度から、高等学校は来年度に完全実施の予定です。そこでは、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養が目指されています。「生きて働く」

「未知の状況にも対応できる」「学びを人生や社会に生かそうとする」資質・能力は、子どもたちの今はもちろん、将来において必要とされる大切な力です。

大きく変化する社会、それゆえ先を見通すことがありますます困難になる社会、そのような社会でたくましく生きていくために必要な資質・能力の育成が求められています。これからの中学校に求められるのは、子どもたちの未来のための教育であり、生涯学習の基盤となる教育だと考えられます。

島根大学教育学部は、このような変化する社会に主体的に、そして創造的に対応する教師を育てるために、

先行的に取り組んできた教員養成特化型学部としてのカリキュラムの利点を生かしながら、平成29年度に学部教育をリニューアルしました。目指す教師像は次の3つです。

- ・学び続ける教師
- ・教育実践を省察する教師
- ・社会における未来を創造する教師

このような21世紀の教育を担う教師を育成するため、深い子ども理解と教科の専門性の修得を目的とする小中学校免許状併有カリキュラム（主副専攻制）や、地域社会との関わりの中で学ぶ1000時間体験学修、様々な他者と語り合いながら教職をより深く理解する教師力パワーアップセミナー・未来教師塾など、独自の教育システムで教員に必要な教師力の育成に取り組んでいます。

令和3年度には、教育学部附属義務教育学校内に「山陰教員研修センター」を設置しました。本センターの特色である子どものいる教員研修の機能を有効に活用しながら、島根・鳥取両県教育委員会と連携・協働して教員の養成・採用・研修の一貫教育システムの構築を進めています。教員養成段階にある本学部の学生が、現職教員の研修する姿、まさしく学び続ける教師の姿に学びながら本物の実践力を身に付けることを期待しています。

後援会の皆様には、これまで学内環境整備はもとより、学生の体験学修に必要な旅費の援助、就職支援の一環としての教員採用試験対策用図書の整備や就職に関わる諸訪問のための交通費の助成など、本学部の教育活動を様々な側面からご支援いただきました。

今後も教育学部の全教職員が一丸となって教師を目指す「夢」と「志」を持った学生を支援していく所存です。益々のご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

# 教育学部・教職大学院 一貫プログラムが始まりました

令和3年度から、教育学部・教職大学院一貫プログラムが始まりました。このプログラムは、学部卒業後に引き続き教職大学院への進学を希望する学生に対して、4年生のときから教職大学院の授業や各種行事に参加することができるなど、通常教職大学院に入学後2年間で学ぶ内容を3年間でじっくり学べるプログラムです。

## ■プログラムの内容

学部4年次に、以下の活動等を行うことができます。

- 1) 教職大学院で開講される共通科目の履修（4科目まで）ができます。（修得した単位は8単位まで教職大学院の修了に必要な単位として認定されます。）
- 2) 教職大学院の専任教員とともに、教職大学院で実施する地域教育課題研究に向けたゼミ活動を行います。
- 3) 教職大学院で行われる各種行事への参加（院生の研究成果発表会等に参加します。）
- 4) 教職大学院専任教員による教員採用試験対策の活動へ参加することができます。
- 5) 教職大学院専任教員からの卒業研究に関する指導をうけることができます。

## ■申請要件

3年次前期までに次の基準に達していることが必要です。

- ①教育学部の卒業要件単位のうち、96単位以上を習得していること。
- ②教育体験活動のうち、「学校教育実践研究Ⅱ」、「学校教育実習Ⅲ」、「学校教育実習Ⅳ」、「学校教育実習Ⅴ」の単位を修得見込みであること又は履修資格を有していること。
- ③GPAが3.0以上であること。

## ■申請・選考等（前年の12月頃に募集要項が発表されます。）

- (1) 申請受付期間：2月後半頃に申請
- (2) 申請方法：申請書、志望理由書、成績証明書を学生センター教育学部担当に提出
- (3) 選考方法：3月初め頃に志望理由書、成績証明書の書類審査及び面接を実施
- (4) 発表日：3月後半

## よくある質問Q&A

### ① 教職大学院の入試を改めて受ける必要がありますか？

A 学部の卒業や教職大学院への入学は従来通りです。したがって、教職大学院の入試も受験していただきます。ただし、一貫プログラム履修生用の入試を行います。

### ② 教職大学院で就学中に教員採用試験に合格した場合、採用はどうなりますか？

A 入学前や1年生のときに合格した場合、島根県や鳥取県等では大学院修了まで合格を維持したまま、採用を待ってもらえる制度があります。

### ③ 教職大学院への進学時、入学料はかかりますか？

A 通常通り入学料を納めていただきますが、入学料と同額程度の奨学金が支給される予定ですので、実質的に入学料はかりかりません。

### ④ 指導教員は学部と教職大学院で変わりますか？

A 基本的に学部の指導教員も、そのまま専任教員のメンバーに加わるような体制ができるようにしていきます。

### ⑤ 途中でプログラムの履修をやめることはできますか？

A 一貫プログラムの中止願を提出することにより、本プログラムの履修を中止することができます。しかし、ぜひ教職大学院修了までの3年間の学びを達成して欲しいと願っていますので、よく検討して申請してください。

1年

# 学生の年間スケジュール紹介

## 入門期セミナー

### 《入門期セミナー》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間を共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通して、幅広い人間関係を築くことができます。

1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。



◎◎学部(大学)行事等

★Web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎入学式・オリエンテーション											◎基礎体験交流会
◎入門期セミナー		◎地域理解セミナー		◎主専攻決定		◎スタートアップセミナー	◎大学祭		◎介護等体験登録締切	◎介護等体験説明会	
◎専攻決定ガイダンス						◎在学生ガイダンス					◎副専攻決定
◎一般教養からだめし ★教職志向性調査					◎副専攻仮決定 (年度末に決定)						
		◎学校教育実習I									
		◎学校教育実践研究I									
◎基礎体験合同説明会											
◎基礎体験活動開始											

## 学校教育実習 I 教職志向・進路調査

附属幼稚園・附属義務教育学校で3日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。（前期・20時間）



## 学校教育実践研究 I

学校教育実習Iと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。大学4年間の学びにおける教育実習の位置づけを理解するとともに、「教わる側」から「教える側」への視点の転換を図ります。また、学校教育実習の期間中には、自ら作成した授業（保育）記録に基づいて建設的な授業協議を行うための基礎的な技能を身につけます。（前期・20時間）

## 教育学部で 学ぶこと

1年前期に開講される、専門教育科目の基盤となる科目です。文献検索やレポート作成など、大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけるとともに、授業観察や授業協議など、教育学部生に必要となる技術を身につけています。また現代的教育課題についての理解に基づいて、自らの進路に応じた履修モデルを構想します。

## 大学祭

松江キャンパスでは「淞風（しょうふう）祭」という名称で毎年10月に開催されています。



## 基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

## 基礎体験活動開始 (1000時間体験学修プログラム)

必修の100時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の540時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加できます。



## 地域理解セミナー

これから本格的に基礎体験活動を始める1年生対象の基礎体験セミナーです。地域における学校現場以外での教育活動について理解を深めたり、基礎体験活動におけるルールやマナーについて確認したりして、安心して活動に取り組むことができるためのセミナーです。

## スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組を振り返る基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などをを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



## 学校教育実習Ⅱ

附属学校園で行う教科指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時までに別途定められた履修資格を満たしている必要があります。（通年・20時間）

## 充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組の傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



## 教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組です。2月末の「宿泊研修」には2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現役教員である先輩との交流会もあります。



◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎在学生ガイダンス					◎充実期セミナー			◎教員採用試験合格者 体験報告会		◎基礎体験交流会	
◎健康診断					◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明			◎LP返却		◎教師力 パワーアップ セミナー	
◎介護等体験事前指導					★LP入力			★LPまとめ			
★教職志向性調査					★教職志向性調査			◎C系・G系			
◎学校教育実習Ⅱ					◎在学生ガイダンス					◎LP提出締切	
◎介護等体験											

## 学修ポートフォリオ (LP)

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。「学修ポートフォリオ (LP)」は、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。これまでの「プロファイルシート」から新しく「学修ポートフォリオ」へとシステムを変更し、より入りしやすくなりました。「学修ポートフォリオ」の作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面で行います。その目的は、教師に必要な能力の総体である「10の教師力」の修得状況を、複数の評価視点（自己評価、他者評価、客観的評価）からレーダーチャートや言語による可視化することにより、学びの状況とこれからの目標を確認することあります。数値だけでなく、ポートフォリオを仲介とした指導教員と学生のコミュニケーションを大切にしています。

C系・G系

学校教育体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。C系は個人（子ども・保護者）に対する支援（Counseling）を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方にについて学びます。G系は学級集団形成など集団における支援（Group approach）を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。  
(2年後期・3年前期 各20時間)



## 介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設（老人ホーム等）で、あわせて7日間の体験を行います。

〈内訳〉

- 島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験（2日間）  
(例) 授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助の体験等
- 島根県内の社会福祉施設（老人ホーム等）での体験（5日間）  
(例) 介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助の体験等

## 学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、学習者理解を基本とした教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるためのふりかえりを行います。(通年・40時間)

## 学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

### ●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）

主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業観察を通して、授業を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います。

### ●学校教育実習Ⅳ（後期・120時間・4単位）

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。教科指導をはじめ、学習集団の形成や学級経営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。

### ●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）

副専攻の校種・教科に対応した観察実習主体の教育実習です。学齢期にある子どもの「成長」、「発達」をより長いスパンから捉え、子ども理解を深めます。

## スクール・インターンシップ

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行いますが、実習を行わない期間を活用して特別に用意されたスクール・インターンシップを行います。公立小中学校を中心に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習												
	◎学校教育実践研究Ⅱ						◎スクール・インターンシップ					
		◎学校教育実習Ⅲ				◎学校教育実習Ⅳ			◎学校教育実習Ⅴ			
			◎スクール・インターンシップ説明会		◎スクール・インターンシップ合同事前指導							
講義・その他	◎在学生ガイダンス	◎健康診断			◎在学生ガイダンス			◎面接道場				
	★教職志向性調査						◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会					
		◎C系・G系					★LP入力	◎LP返却				
							◎応用期セミナー	★LPまとめ				
							◎教員採用試験スタートガイド	◎教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会				
							★教職志向性調査		◎教師力パワーアップセミナー			

## 面接道場

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評議委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授してくださいます。



## 応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。スクール・インターンシップ及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。



## 教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組みです。2月末の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活すぐに必要となるスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



### 学校教育実習VI 幼稚園実習

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。取得したい免許状に基づき、学校教育実習VI、幼稚園実習のいずれかを選択します。

学校教育実習VI（前期・40時間・1単位）[選択]  
幼稚園実習（前期・80時間・2単位）[選択]

### 発展期セミナー

4年生対象の基礎体験セミナーです。4年間の大学生活で、自ら選択して取り組んできた基礎体験活動について振り返ります。基礎体験活動の成果や、自己の在り方への影響度などを協議することを通して、自分自身の学修の総括を行います。



### 学生就職・進路情報

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合せが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究					◎題目提出締切り(指導教員に提出)					◎口頭試問 ◎卒業演奏試験(音)		
教員採用試験			■願書提出 ◎教師力パワーアップセミナー ◎願書添削セミナー ◎マナーアップセミナー	■一次試験 → 合格発表	■二次試験 ■講師登録 → 合格発表				■各教育委員会による合格者研修	■勤務校決定 ■講師採用の連絡		
その他	◎学校教育実習VI ◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎進路希望調査				◎発展期セミナー ◎在学生ガイダンス(就職・進路調査) ◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会 ◎LP入力 ◎大学院出願(I期) ◎大学院入試(I期) さらに自分を磨く基礎体験(学校体験を中心) → 合格発表	◎教育職員免許状申請手続 ◎教職実践演習 ◎1000時間体験学修時間認定締切り ◎大学院出願(II期) ◎大学院入試(II期)			◎LPまとめ入力	◎卒業式 [LP返却] ◎進路状況調査		

★教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。

### ○教員採用試験 先輩からのアドバイス○

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果の範囲をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出、必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手を付けても意味がない、同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

### 未来教師塾

#### 教員採用試験対策

##### 〈教師力パワーアップセミナー〉

- ◎主に面接(集団・個人)、集団討論の練習をします。
- ◎教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。ここでのアドバイスはとても重要です。

##### 〈就職支援室〉

- ◎証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- ◎各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- ◎その他の就職相談

##### 〈その他〉

- ◎願書添削セミナー、マナーアップセミナー等の開催



# 卒業生の声

—卒業を前に大学生活、学習等で思い出に残ったことや、後輩への言葉などを寄せていいただきました—

## 「自分で選んでいくこと」の大切さ

初等教育開発専攻 渡部 溫実



漠然と「大学って自由で楽しそう！」というイメージをもって入学した私はとても楽しい四年間を過ごすことができました。楽しかったと言い切れるのは、生活が充実していたからであると思います。生活を充実させるためには「自分で選んでいくこと」がとても大切であることを学びました。

島根大学では、自分の体験したいこと・身につけたいことにあったプログラムがあります。必修の授業・実習以外に、私は海外の学校訪問に行かせてもらったり、年間を通して子どもとかかわるボランティア活動に参加したり、特別支援学級の支援に入ったりと、自分が「やってみたい」「知りたい」と思ったことはすぐに取り組みました。時には自分のキャパを超える量をため込み大変な時もありましたが、様々な経験をすることで自分の経験値があがりました。大学四年間を通して一番感じたことは、この貪欲に「自分で選んでいくこと」をしていくことです。

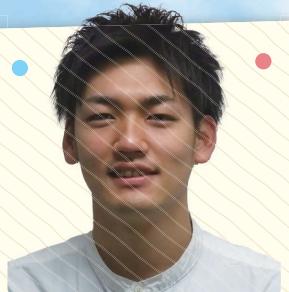
さらに、そんな選択の時自分一人では不安になる時があります。教育学部では周りに同じ目標に向かって努力する仲間が多くいます。授業・1000時間体験学修・教員採用試験対策、周りに刺激しあえる仲間がいたから「もっともっと」と頑張ることができたり、「どうする？」と共に悩んで乗り越えたりすることができました。

また、島根大学教育学部では各専門分野の先生、現場から来られている先生など豊富な経験をもった沢山の素晴らしい先生方がおられます。子どもとのかかわり方で気になったこと、授業・保護者対応で聞きたいことがあったときは自分で考えるのではなく、すぐに相談に行くことができました。そのような環境で過ごせたことはとても幸せであったと思います。

この春から島根県の小学校教諭として働きます。日々新しいことの連続に今からワクワクしています。分からないことは周りの方に聞き、常に学び続ける姿勢を大切にして教員生活を送っていきたいです。

## Live my dream

英語教育専攻 石原 和哉



「英語の教員になりたい」と明確な意思を持ったのは、在学中のミシガン州立大学での海外研修がきっかけでした。初めての海外での生活は自分にとって大変刺激的なものであり、自身の英語の運用能力の低さを痛感した苦い思い出もあります。そして、もっと英語を勉強してより多くの人々とコミュニケーションをとれるようになりたい、自分と同じように英語を使うことで困っている生徒を一人でも多く助けたいという思いが湧いてきたのを覚えています。それから自分の生活は劇的に変わりました。もちろん大変なことや落ち込んだことも何度もありました。自分の夢や目標に向かって努力する過程の重要性と充実感を学ぶことができた貴重な時間でした。楽しい時間も苦しい時間も共有できる同期の仲間や、いつも手厚いサポートを頂いた教職員の方々、一番近くで自分の頑張りを見守ってくれる家族といった様々な人々に支えられた大学生活でした。

島根大学教育学部は、学生ひとりひとりがそれぞれに多様な学びの形を実現することができる場所です。将来、教員として働くために必要な学びの材料は随所に散りばめられています。専攻別の講義、実習や1000時間体験活動、国際交流活動など独自の魅力がたくさんあります。新入生の皆さんには、こういった材料を存分に活用して悔いの残らない日々を過ごしてほしいです。4年間の大学生活は長いようであつという間に過ぎていきます。卒業時に、自分が成長したと実感できるような大学生活にしてください。

春から、島根県の中学校で英語の教員として教壇に立ちます。教員としての生活は、楽しいことも辛いこともたくさんあると思いますが、日々学び成長し続ける姿勢を大切にしたいです。自分が生まれ育ったここ島根という地から、広い世界に羽ばたいていく人材を育てる教員として精一杯頑張ります。

## 何事も自分次第

共生社会教育専攻 若宮 将司



島根大学で4年間過ごして、私ははじめての経験をたくさんしました。生徒の前で授業をすること、子どもと一緒にキャンプをすること、ハワイでホームステイしたこと、居酒屋でアルバイトをしたことなど、これら以外にも多くの経験をしてきました。今振り返ってみるととてもいい思い出であり、自分の財産だと感じます。しかし、どのような経験も初めの一歩は、とても勇気が必要です。やろうと思っても、失敗が怖くて先延ばしにしてしまったり、違うことをしなければいけないと勝手に自分に言い訳を作ってしまったりすることもありました。そんなときに私は、「やらずに後悔するよりも、やって後悔する方がいい」と自分に言い聞かせていました。実際にやってみるとどの経験も無駄なことは何一つなくて、そこから学ぶべきことが多くありました。私自身、こうしていろいろな経験を積み重ねることで人としても成長できたのではないかと思います。

私が伝えたいことは、何事も自分次第で変えることができるということです。島根大学教育学部には、自分の悩みや相談に乗ってくださり、やりたいことを支えてくださる先生方や同じ目標、価値観を持った仲間がいます。また、いろいろな経験ができる1000時間体験などのカリキュラムもあります。しかし、失敗が怖くて先延ばしにしたり、自分自身に言い訳をしたりして経験することから逃げるのではなく、自らそのチャンスをつかんでいってください。そして、島根大学教育学部で過ごした4年間を振り返るときに成長したと思える学校生活を送ってください。

私は、春から広島市の中学校社会科の教員として教壇に立ちます。島根大学教育学部でのたくさんの経験を生かして自分らしく頑張っていきたいと思います。

## 「学」

音楽教育専攻 田中 愛弓



「小学校の先生になりたい。でも音楽の勉強も続けたい。」高校3年の春に、そう強く思うようになり、島根大学への受験を決めました。主専攻で音楽の実技を深めながらも、同時に副専攻で小学校の免許取得も可能である島根大学のカリキュラムは、私にとって大魅力的でした。

私の4年間の大学生活は、一瞬で過ぎ去っていったように思います。それは、大学での学びが非常に充実していたからです。主専攻での実技のレッスンや音楽科教育法、副専攻での小学校全教科の教育法、1回生から行う教育実習、1000時間体験での子どもとの触れ合い、実習セメスターでの現場経験等、書き連ねることができないほどの多くの学びの場がありました。また私は、幼稚園教育にも興味があったため、免許プログラムを利用して幼稚園教諭の免許も取得しました。他にも、3枚目の免許として特別支援教育の免許を取得した友人もいます。このように島根大学教育学部では、主専攻や副専攻のみならず、自分の興味のある分野に対しても学びの場を広げることができます。島根大学には、多くの学びの場が用意されています。どう活用し、どう学ぶかは、自分次第です。新入生のみなさんも、今すぐでなくてもよいので、自分が大学生活で何をしたいか、何を学びたいか、考えてみてください。きっとそれが、みなさんの未来に確実に繋がっていくと思います。みなさんの大学生活が実り多きものとなりますよう、応援しています。

私は主専攻が中等系でありながらも、小学校の教員になる道を選択しました。来年度からは、岡山県の小学校教員として教壇に立ちます。これまでの全ての経験から得た学びを最大限に生かして、理想の教師像に近づくべく、日々精進していきます。

# 後援会活動の概要

## 1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップ  
セミナーなど学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）
- ③学生の学会発表等の交通費補助
- ④貸出用ノートパソコン等の整備



## 2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、実習受入校の実習経費への助成(学生が実習で使用する文房具や教材等への助成)



## 3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助  
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成
- ②就職支援室の書籍整備等への助成
- ③企業志望学生の支援  
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成
- ④4年生の就職活動の交通費補助
- ⑤教員採用試験の模擬試験の受験料補助

## 4. 国際交流活動の支援

- ①テキサス大学、ミシガン大学、ヴァージニア・コモンウェルス大学学生との交流活動への助成

## 5. 教育環境整備の支援

- ①構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）
- ②コロナウイルス感染対策に係る経費への助成



## 6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

## 7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成

令和3年度

## 教育学部後援会役員名簿

地区	氏名	在学年	氏名	役職
境港市	高瀬 祐彦	4年	高瀬 広海	会長
西伯郡	中嶋 盛浩	4年	中嶋 盛一	副会長
出雲市	別所 祐司	4年	別所 郁実	幹事
松江市	松嶋 博	4年	松嶋 文子	幹事
松江市	門脇 晃一	3年	門脇 陸	幹事
出雲市	黒目 久美子	3年	黒目 尚志	幹事
出雲市	園山 薫	3年	園山 実沙季	監事
出雲市	長崎 康弘	3年	長崎 耕作	副会長
松江市	有富 務	2年	有富 和生	会計幹事
西伯郡	内田 浩文	2年	内田 有香	監事
雲南市	岡田 亜輝	2年	岡田 郁実	幹事
出雲市	勝田 香里	2年	高木 拓哉	幹事
安来市	青木 朱美	1年	青木 水輝	幹事
出雲市	岩崎 ひとみ	1年	岩崎 萌香	幹事
出雲市	内藤 正和	1年	内藤 綾香	幹事
松江市	柳浦 礼子	1年	柳浦 駿太朗	幹事

(順不同、敬称略)

# 学生支援事業のお知らせ

教育学部後援会

2021年度の後援会学生支援事業として、下記のとおり実施します。  
会員学生（保護者が後援会会員である学生）への補助となります。会員学生の方は遠慮なく申請してください。また、未入会の場合は、期限なく受け付けていますので、ぜひご入会ください。

## 全学年・院生対象

- ◆介護等体験、1000時間体験（基礎体験活動等）、実習セメスターでの学校体験活動、実習等に伴う交通費を補助します。

**【5,000円まで（年間）】（松江市内でも補助）**

## 3・4年生、院生対象

- ◆教員採用試験模擬試験の受験料を補助します。

**【5,000円まで】（生協等で実施している模擬試験を対象）**

- ◆就職活動（教員等採用試験の受験を含む）の交通費を補助します。

**【10,000円まで】**

## 全学年・院生対象

- ◆学会発表等の交通費を補助します。

**【10,000円まで】**

○問合せ・申請先：教育学部事務スタッフルーム（165室）後援会担当

電話 32-6251（内線3521）

E-mail : [edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp](mailto:edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp)

○発行 島根大学教育学部後援会

E-mail [edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp](mailto:edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp)

ホームページURL <https://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>

○発行日 令和3年7月1日

○発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局

○所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060  
TEL (0852-32-6251)  
FAX (0852-32-6259)

○印刷 明和印刷有限会社